



大正画日々新聞紙 第 廿号
 夜 時次郎の悪行

明治八年五月廿六日東京芝西應寺甲

尾張や勝五郎の身をまぐる人力車曳の

時次郎とよみ 高輪辺ゆかり

頃損料

ふと金をか

あざらわへ

さぬ佳俣

日々まが

既ふ高輪へ

ゆうれね短気の損料や

時次郎を縄おまわりお擲

芝將監をトト身をおんとせ 折もあつ時次郎 巡査お助けられ

其原籍を糾してこれバ甲加より出さる女をて男次女とまをまびふ

尻の飼士喧嘩の先がら 藝妓の宮子を廻りてまをまびふ七手抄あ女と

云々からサが男の次女とまを男が女と身をまをまびふと外お悪いまがあふ

てもお巡査お助けであふれまをまびふと事おまびふと讀うま百六号を出

山崎政三郎
 貞徳堂

あり忠治
 貞徳堂
 岡田七郎又

大阪錦画日々新聞紙24号 文庫10-8068-19

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

